

事業の実績	
	<p>公害・環境問題に関する大学生の意識・理解の現状を明らかにすることを目的とし、本学の学生を対象とした意識調査（アンケート）を実施した。調査実施にあたって、本学の「人を対象とする研究」に関する倫理委員会の承認を得た。</p> <p>アンケートは、自由記述を含め全18問で、①公害・環境問題についての考え、②水俣病について知識と学習経験、③水俣病に関するできごとについての意見について質問した。</p> <p>アンケートの回収は、25年9月から10月にかけてGoogleフォームを利用して回収を行った。授業時にアンケートの趣旨の説明と協力を呼びかけたが、回答は任意とした。最終的に、287件の回答を回収することができた。</p> <p>アンケート回収後、11月から26年1月にかけて結果の集計および分析を行った。また、回答については、①卒業した小学校（県内・県外）、②水俣病の学習経験、③水俣病に関する法律・文書の知識、とクロス集計を実施した。</p>
具体的な成果	
	<p>公害や環境問題への関心を問う質問では、7割以上が「地球温暖化による気候変動の影響」に関心があると回答した。なお、水俣病事件を含む「日本の四大公害の歴史や現状」については、34.5%が関心ありと回答した。</p> <p>①卒業した小学校（県内・県外）によって、水俣病に関する学習経験や、学習した内容への影響については顕著な差がみられた。学校で学習・経験した内容で特に記憶に残っていることを問う質問では、県内の小学校を卒業した学生は「偏見や差別問題、風評被害」が最も多かったが（65.2%）、県外の小学校を卒業した学生は「水俣病が発生したメカニズム」「健康被害や環境汚染の実態」（ともに55.6%）が多かった。</p> <p>また、②水俣病の学習経験について、「小学校のみ」「小・中学校で学習した」「小・中・高校で学習した」「小・中・高校と大学で学習した」「その他」にグループ分けして分析した。小学校でのみ学習したグループよりも、継続して学習したグループの方が、③水俣病に関する法律・文書に関する知識が高く、水俣病をめぐる近年のできごとや現在の課題についても関心が高いという結果が得られた。ただし、小学校から大学まで継続して水俣病について学習した経験がある学生は回答者の7.7%にとどまった。</p> <p>アンケートの結果から、水俣病をはじめとする公害問題については、歴史的経緯だけではなく、現在起きている問題や法律・文書への関心・知識について、小・中・高と大学まで、段階的かつ継続的に学習することが効果的ではないかという予測が得られた。</p> <p>アンケート結果については、報告書を作成し、公表する予定である。</p>

水俣病に関する学習経験

